

令和6年度学校経営方針

菊川市立菊川西中学校

1 本校の現状

生徒

- 素直で真面目、落ち着いている
- 学校行事、清掃等に一生懸命取り組む
- 小集団では男女の別なくよく語り合える
- 学習課題に意欲的に取り組む
- △不登校傾向をもつ生徒が多い
- △まだ自分で考えて、判断する力が弱い
- △集団が大きくなると意見交換が限定的
- △特別な支援を要する生徒の増加

教職員（学校）

- 学年で取り組む意識が高い
- 生徒の取組を待つ姿勢ができてきた
- 授業研究に意欲的である
- HPで自信をもって生徒の姿を公開
- △支援を必要とする生徒、配慮を要する保護者対応に苦慮している
- △生徒に考えさせようとしているが、選択の場、選択肢がまだ十分でない

保護者（家庭）

- 本校教育への信頼度の高さ
- 学校の取組へのクレームの少なさ
- △生徒の家庭での過ごし方の格差拡大
- △養育能力に乏しい保護者の増加

地域

- 加茂・駅北地区を中心とする新規流入層で生徒数増加傾向
- 菊川市をリードする自負心のある地域
- △地区コミュニティの衰退、分散化
- △定住年数による価値観の多様化
- △地域を知る方たちの高齢化

2 教育行政が求めるもの

文部科学省

『令和の日本型学校教育』構築の推進、働き方改革
学習指導要領の着実な実施（「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善）
個別最適な学び（一人1台の端末を活用して個人に合った学習や指導）
協働的な学びの実現、全ての子どもたちの可能性を引き出す

静岡県（教委）

ふじのくに「有徳の人」づくり大綱、静岡県教育振興基本計画による教育の推進
『有徳の人』の育成 ～誰一人取り残さない教育の実現～

- 知性・感性・身体能力など、自らの個性に応じて「才」を磨き、自立を目指す人
- 多様な生き方と価値観を認め、自他を大切にしながら「徳」を積む人
- 「才」を生かし「徳」を積み、社会や人のために貢献する「才徳兼備」の人

菊川市（教委）

菊川市教育の基本理念「豊かな学びで歩み続ける人づくり」

～自立した人、思いやりのある人、いつまでも学び続ける人～を受け、

「確かな学力、健やかな心身」の育成を目指した、知・徳・体のバランスの取れた教育の推進

- ① 小中一貫教育「学びの庭」構想の推進→コミュニティースクール化
- ② ICT環境等を生かした魅力ある授業づくり
- ③ 思いやりに満ちた学校づくり
- ④ 「一人ひとりが生きる教育」の推進
- ⑤ ころざしを持った頼もしい教職員の育成

3 本年度の目標

学校教育目標

地域に誇れる 地域が誇れる 菊西中

5年目

胸を張って地域に発信や貢献できる生徒、学校の姿を目指す。その姿を地域が誇ってくれるようにしたい。地域の統合の象徴として大事にされる学校を目指す。

重点目標

自立・共生

3年目

本校生徒の実態や私たち教職員が生徒に願う姿、教育行政の求めるものを受け、引き続き重点目標をこのように掲げ、全教育活動において生徒にこの姿を求めていく。また、それを私たち教職員が全力で支えていく。自立・共生している姿とは、

- | | |
|------------------|-----------------------|
| ・自分(たち)で考える | ・他者の意見に耳を傾ける、認め合う |
| ・自分(たち)で決める | ・みんなにとってよりよいもの、ことを目指す |
| ・自分(たち)から行動する | ・みんなで乗り越える、励まし合う、支え合う |
| ・自分(たち)を見つめる | ・地域や社会を意識できる人を目指す |
| ・しなやかに乗り越える力をつける | ・みんなで対応していく |

《Iの伸長》自己の成長

《Weの拡張》人や社会とかかわる力

よって、私たちが生徒に問いかけることも、

「あなたはどう考えるの？」

「周りの人の意見も聞いたの？」

「あなたはどうしたいの？」

「それってみんなにとってもよいもの、こと？」

「あなたはどうしたかったの？」

「みんなでがんばろう。一人じゃない」

「あなた自身をどう思うの？」

「地域や世の中の人から見たらどうなのかな？」

のような言葉になる。そして、賞揚（認める）言葉も、

「あなたの考え、決めたこと、

「みんなにとってよりよいもの、ことになったね」

とった行動、いいと思うよ」

「みんなのために…と考え、行動したからだよ」

「あなた自身が成長したね」

「他の人たちにも喜ばれた（れる）よ」

などの言葉になる。求める以上、認める言葉のシャワーも欠かせない。

自立・共生は、中学校を卒業しても人として一生求められる姿である。よって、この姿は生徒のみに求められる姿ではなく、私たち教職員にも求められる姿である。

私たち教職員は、リスクを考え、生徒の不適切な行動を減らすことに注力しがちだが、適切な行動を増やすことにこそ注力すべきである。それには、普通に、適切に行動できている生徒を認め、褒めることに力を入れたい。自分の力で何とかしようとしている姿、みんなのことを考えて行動しようとしている姿をもっと見出し、褒めたい。命や人権に関わることでなければ、失敗することも成長の糧になると考え、今以上に生徒が選択する場、選択肢を増やし、任せたい。ただし、任せることと放任は異なる。自立・共生を促すことができる私たちの準備こそ怠ってはならない。生徒の自立・共生する姿を追い求めることは、とても時間と手間がかかることだが、だからこそ全教職員で力を合わせて取り組み、効果を高めたい。私たち教職員こそ、自立・共生すべきである。

生徒の表れを認め、ほめる上で、私たちの言動を**人権の視点**に立って振り返ることを忘れずにいたい。生徒や保護者の想いをしっかり聴く姿勢こそ大事になる。

4 経営の重点

上記重点目標の達成のために、私たちの2つの使命と外部との連携に力を注ぐ。

生徒指導（理解） 生徒指導主事を中心に、部ごと推進

「自ら考え、行動する生徒の育成」 ・自己判断 ・主体的な行動 ・思いやる心
生徒(たち)自身の選択する場、選択肢を意図的に増やしていく。

「安心、安全な環境づくり」 **人権の視点**に立ち安心、安全な環境づくりや多様性の尊重を目指す。全教育活動において、積極的な生徒指導を推進する。
適切な行動を「褒める」「認める」「習慣化する」ことが基本
重点目標の達成を目指し、生徒指導主事を中心に3つのつくり部体制で臨む。

学びつくり部

自ら学び自ら考え、互いに高め合う生徒を目指す。

安心つくり部

自他の安全や幸せを願い、判断、行動できる生徒を目指す。

活動つくり部

集団の中で自他の幸せを願い、自ら考え行動できる生徒を目指す。



これらの推進において、市内外教育機関やPTAと積極的に連携する。特に、不登校やいじめ、問題行動対応には、迅速かつ複数での対応や関係機関との連携を重視する。

5ステージ制を継続するので、「出会い」「挑戦」「団結」「学び」「感謝」のステージであることを意識した取組を、つくり部を中心に構成して実践していく。

授業研究 研修主任を中心に、研修推進委員会が推進

「子どもが自分の人生を幸せにする」ことができるような成長を願い、授業研究に力を注ぐ。授業の中で、授業を通して、自立と共生を目指す。

研修テーマ

協働を通して、自分の考えを構築・再構築できる生徒の育成

菊西学舎の目指す子ども像「学び合う子」、本校の重点目標『自立・共生』を受け、テーマの下、委員を中心に研修を進める。必然性、必要性のある協働により、生徒が自分の考えを構築できたり、再構築できたりする学びの姿を追求する。協働させることを目的とせず、どのような協働が自分の考えの構築、再構築に有効であるかを模索する。

R6の地域支援課学校訪問

午後のみの全教員が参加しての中心授業研修及び事後研修となる。

ICT

インプットもアウトプットも積極的に活用する。活用することが当たり前の状況を生み出すが、目的とならないように有効な活用法を教員間で広めていく。
生徒が日常的にタブレットを活用しているという意識を高めたい。

R6の菊川市ICT活用研修

市全体での研修は1回（9/30 菊川東中）で限定的な参加者

『学びの庭』構想→CS（コミュニティスクール）発足

菊川市が進める『学びの庭』構想《菊西学舎》を、令和6年度よりコミュニティスクール化し、校区小学校や地域と協力して生徒たちの教育にあたっていく。

【学舎教育目標】地域に誇れる 地域が誇れる菊西学舎

【めざす子ども像】「学び合う子」を掲げ、

ア 中学校と小学校がめざす子ども像を共有し、同じ方向性をもった一貫教育を行う。

イ 地域の住民がもつ力を、地域ボランティアや地元企業の協賛といった形で教育に生かし、子育てしやすい地域を実現する。

〔地域とともにある学校づくり〕と〔学校を核とした地域づくり〕を進める。

ことを目的とする。そのために校長部会を中心に部会を設け、小中合同研修会、学舎運営協議会（正式に発足）を開催して5小中学校の教職員や地域との連携、協働を進める。

地域を代表する方々と学舎運営協議会を年3回開催し、コミュニティスクールへの理解を深めていただくと同時に、地域と共同歩調で活動を進められるように意見交換をする。

異校種間で協働する取組、同校種間で協働する取組も徐々に活発になってきており、本校としても、それぞれ幼稚園・保育園、小学校、高等学校等と協議をし、協働的にできるものを模索していく。

市としての3大プロジェクトにも生徒が参画していく

あいさつプロジェクト 環境美化プロジェクト 防災プロジェクト

5【経営目標（指標）】として以下を掲げる。ゴシック体はグランドデザインでも公開。

- (1) 学校が楽しい…93%
- (2) みんなで何かをするのは楽しい…93%
- (3) 授業に主体的に取り組んでいる…90%
- (4) 授業がよくわかる…90%
- (5) 学校に信頼することのできる先生がいる…90%
- (6) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある…85%
- (7) 学級の生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う…90%
- (8) 学校でPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っているか。
 - (8-1) 授業中に自分で調べる場面で…ほぼ毎日が80%
 - (8-2) 学級の友達と意見を交換する場面で…ほぼ毎日が50%
 - (8-3) 自分の考えをまとめ、発表する場面で…ほぼ毎日が50%
- (9) 自ら考え、行動できていたか…70%

※同じ肯定意見90%でも、強肯定を50%以上に引き上げたい。

6 業務改善

- (1) 細部にわたる教育計画により活動時間を確保し、生徒、教員ともに時間的余裕を生む。
- (2) 生徒完全下校時刻を、もっとも遅い時期でも17:30とする。（市内共通）
- (3) 基本的に会議資料をデジタル化し、紙の使用を縮減する。
- (4) お互いに提出物の方法、期限を守る。

